

堅キ者故此骨ヲ以佛舍利ニ僞ルト云本邦ニテハ惡夢ヲ食フト云傳ヘテ節分ノ寶舟ノ畫ノ帆ニ猿ノ字ヲ書タルヲ枕下ニ襯ス此事唐山ニハ無キ事ナリ然ドモ交趾燒ニ猿枕アリ虎頭ヲ用テ枕トスルハ和漢共ニアリ、

○按ズルニ猿ノ事ハ尙ホ歲時部年始雜載篇初夢條ヲ參看スベシ、

〔源平盛衰記 十六〕三位入道藝等事

後白河院第一御子ヲバ二條院トゾ申ケル略○中 平治二年ノ夏ノ始ヨリ御不豫ノ御事マシクケリ略 東三條ノ森ヨリ黒雲一聚立來南殿ノ上ニ引覆鴝ト云鳥ノ音ヲ鳴時ニ必振ヒタマギラセ給ヒケリ略○中 德大寺左大臣公能ノ被申ケルハ目ニ不見物ナラバ可祈祭是ハ目ノ當リ也弓ノ上手ヲ以テ射サスベキ歟略○中 關白殿ノ仰ニ賴光ガ末葉賴政器量ノ仁ニ當レリトテ源兵庫頭ヲ召レケリ略○中 賴政水破ト云矢ヲ取テ番テ雲ノ真中ヲ志テ能引テ兵ト放ツ略○中 其時ニ兵庫頭源賴政變化ノ者仕ツタリヤノト叫ケレバ唱邊○渡ツト寄テ得タリヤノトテ懷タリ略○中 早太寄テ繩ヲ付テ庭上ニ引スヘタリ叡覽アルニクセ物也頭ハ猿背ハ虎尾ハ狐足ハ狸音ハ鶴也實ニ希代ノクセ物也苟ニ禽獸モ加様ノ德ヲ以テ奉惱君事ノ有ケル事ヨ不思議也トゾ仰ケル略○中 彼ノ變化ノ物ヲバ清水寺ノ岡ニ被埋ニケリ、

〔閑窓自語〕和泉海獸語

和泉にすみし人のかたりけるはかいづかの邊りの海邊にはとき／＼海坊主とかやいへるものいそちかくよる事ありて家ごとに子どもをいさすもしあやまちていづればとり□□いひておそる事とぞ兩三日ばかりして沖のかたにかへるそのかたち人に似て大きに總身くろくうるしの如し半身海上にあらはれたちてゆくかたりしものうしろより見けるゆゑかほをばえらすとぞ、